

# 第 14 回土岐川庄内川流域委員会 議事要旨

日時：平成 20 年 3 月 25 日（火）10:00～12:00  
場所：名鉄グランドホテル 11F 柏の間

## 1. 開会

## 2. 挨拶（中部地方整備局 河川部河川調査官）

## 3. 議事

### ■第 13 回土岐川庄内川流域委員会議事要旨について

第 13 回土岐川庄内川流域委員会議事要旨について説明し、全委員から内容の確認を頂きました。

### ■庄内川水系河川整備計画策定の報告

庄内川水系河川整備計画が策定されたことをご報告しました。

### ■庄内川水系河川整備計画について

庄内川水系河川整備計画策定後の広報手法と庄内川水系河川整備計画パンフレットの内容について説明し、主に次のような意見を頂きました。

- ・パンフレット（P11,12）の流量確率の説明はわかりやすいが、整備計画本編ではどう説明しているか。流量確率と雨量確率をどう今後説明していくのか。（原田）
- ・基本方針では計画雨量、整備計画（P42）では観測史上最大洪水への対応としている。また、パンフレット（P11）で流量確率について説明している。（事務局）
- ・基本方針では、雨量確率で流出計算を実施し、流量確率でも評価するのが一般的である。また、整備計画では目標流量を戦後最大洪水で定義しているので、説明として問題はない。ただし、本編とパンフレットとでニュアンスが若干異なる箇所があるかもしれない。（辻本）
- ・パンフレットについては、委員会だけではなく、一般の人にも意見を聞いて、わかりやすいものにしていくべきではないか。（小尻）
- ・パンフレット作成については、中学生くらいにも理解できるような目標をたてたので、内容的には要約している。（事務局）
- ・今のパンフレットは事務局がまずつくったもの。本来、こういうアウトプットについてもいろいろな意見を聞くべきだったと思う。整備計画作成では、住民にもフィードバックしてきたので、パンフレットについても同様な方法が良かったのではないか。この点は、事務局の反省点でもある。（辻本）
- ・パンフレットの配布先はどう考えているのか。（阿部）
- ・関係市町や今まで意見を頂いた約 3,000 人の方に配布し、流域の方々にも希望があれ

ば差し上げる。また、HPからもダウンロードできるようにしている。(事務局)

- ・ 今までの委員会資料はどうなっているか。(辻本)
- ・ 委員会資料は HP からダウンロードできる。すべての資料はかなりのボリュームになるので、印刷をして、関係者・関係機関には配布したい。(事務局)

## ■河川整備計画策定後の取組み

庄内川水系河川整備計画策定後のフォローアップ手法について説明し、主に次のような意見を頂きました。

- ・ 事務局の提案は、全体を「事業評価監視委員会」でみて、フォローアップ会議、地域、行政、個別課題への対応を行っていくという案である。(辻本)
- ・ 20年前後に一回あるかないかの災害をいつも意識していくことはできないので、住民は何も考えず暮らしていくことが一番だと考える。よって、治水については、治水の専門家に任せておくことが良いのではないかと。(阿部)
- ・ どれぐらいのレベルで守れるかということはトップダウンだけではできないので、いろいろな人の価値観で考えていくべきだと思う。今回の整備計画でも、どれぐらいのレベルの目標を立てるかが難しかったと思う。(辻本)
- ・ フォローアップの仕組みは良いが、役割分担をどうしていくかが大切である。今後も横の連携、双方向の議論は必要であり、工事実施についても勝手に進めるのではなく、地域の人々と相談しながら、環境にも配慮しながら進めることが重要である。(松尾)
- ・ フォローアップ委員会がパレットとなり、客観的に見ていくのがよいのではないかとと思う。フォローアップ委員会に、いろいろな情報が集まる仕組みが大切である。(辻本)
- ・ フォローアップレポートを年に1回作成してはどうか。(小菅)
- ・ フォローアップ会議は、年1回公開で開催し、内容も広報していきたいと考えている。(事務局)
- ・ フォローアップの目的は、整備計画がうまく進んでいるかをチェックすることなので、フォローアップをうまく進める仕組みを作っていくことが大切である。(小尻)
- ・ フォローアップ会議は、毎年どのような効果が現れているかをチェックして、PDCAサイクルを機能させていくことが重要と考える。また、監視委員会は進捗管理をすることが役割だと思う。(辻本)
- ・ フォローアップの例として、整備計画の変更については流域委員会を再度設立し、フォローアップ会議は、地域・行政・個別課題についてどのようにフォローしていくかを検討していく場と考えられる。(事務局)
- ・ フォローアップ会議での議論を事務所長が判断して整備計画変更を検討していくことは大きなサイクルであるので、手直しがきくサイクルも検討するべきである。(辻本)
- ・ PDCAのサイクルを回すのは事務所で、フォローアップ委員会あくまでもフォローをするのが役割である。また、監視委員会は外部的なチェックのみを行うことが役割である。(松尾)
- ・ フォローアップ会議は、PDCAサイクルの中で実施計画を評価し、修正していく役割

があると思う。(原田)

- ・ 5年先くらいの段階的整備計画が必要だと思うが、事業効果が出ない整備メニューもあるので、効果を確認する期間を検討していく必要がある。(辻本)
- ・ 1年毎に事業効果を判断することは、河川事業では難しいと思う。(原田)
- ・ フォローアップ会議は、事後評価ができれば良いと思う。個別の課題については、流域全体との連携を検討していくことが必要と考える。(富永)

#### 4. 閉会（中部地方整備局 庄内川河川事務所所長）